



GRACIELA SUSANA グラス 76/45 for VIP

SIDE 1

1. アドロ
2. 粹な別れ

SIDE 2

1. 雪が降る
2. 地図にない海

歌・ギター: グラシエラ・スサーナ
ギター: オスワルド・アベナ (SIDE 1②)
演奏: 新音楽協会

制作にあたって

VIP会員の皆様、日頃、第一家庭電器を御愛顧いただきまして、誠にありがとうございます。

前回の「PRO MIXING 45 FOR VIP」に続いて、VIP完全限定レコード第2作が完成いたしました。

今回は、去る3月にDAMがオリジナル・レコーディングいたしました、グラシエラ・スサーナをとりあげてみました。この録音は夏の「マニアを追い越せ大作戦」で、「グラシエラ・スサーナ 76/45」(DOR-0056)として発表されていますので、お持ちの方もいらっしゃるかと思います。

ところで、今回のVIPレコードは、DOR-0056には収録されていない「雪が降る」と、スサーナの自作・自演の「地図にない海」、そして前回の中から「アドロ」と「粹な別れ」以上の4曲を収めています。

VIP会員の皆様のレコードとして、最高品質でかつ他では手に入らない愛蔵家ナンバー入完全限定盤ということで、全4曲で15分15秒という充分な余裕をもって、ハイレベル・カッティングしてあります。勿論、カッティング・マシン等も前回と同じものを使用し、製盤にあたっては前回同様、厚手盤とし、更に万全を期すため、マスター・プレスといたしました。というわけで、DAM45オーディオ・チェック・シリーズの中でも最高に、ぜいたくなレコードとなっています。

なお、DAMでは、DOR-0056と同じ選曲で、メタル・カセットと2トラ38マスター・テープも発表しておりますので、あわせてそれらを聴き比べていただくと、レコード、カセット、オープン・テープそれぞれの長所・短所をおわかりいただけるかと思います。

今後も、VIP会員の皆様のお役にたてる、ソフトの提供、企画に努力してまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

※DOR-0056をもしお持ちでない会員の方がおいでしたら、まだ若干の手持ちがございますので、各DAC店長に御相談ください。

STEREO
DOR-0069
Daichi-karadenki Audio Member's Club
DAM

DAM推進委員会

スサーナ紹介

グラシェラ・スサーナ（本名グラシェラ・スサーナ・アンプロシオ・デ・ベドゥイーノ）は、1953年1月22日アルゼンチンの首都ブエノスアイレスのビジャ・クレスポに生まれ、

1959年 6歳のスサーナはギターをケロ・バラシオス（アルゼンチン・フォルクローレ界の重鎮）とアルノルド・ピント、声楽をアルバ・デベリオン夫人に習う。

1963年 10歳のスサーナは歌にもギターにも豊かな天分を示した。

1967年 偉大な女性歌手マルガリータ・バラシオスのグループに2歳年上の姉クリスティーナと共に加わり、そこで識りあったウーゴ・ロベスと共に「トリオ・ロス・カウティーボス」を組み、注目を集める。その後クリスティーナがウーゴと結婚しデュオ（二重唱）を組んだため、スサーナはステージから離れる。

1970年 アルゼンチンのコルドバ州コスキン市で開かれたフォルクローレフェスティバルで、「クリスティーナとウーゴ」が熱狂的な喝采をうけてスターの座についたこの年、おなじコルドバ州のラファルダ市で開かれたタンゴ・フェスティバルに出場したスサーナは、最優秀新人賞を獲得、「世紀は永遠のタンゴへの若々しい芽グラシェラ・スサーナを世に送り出した」と満場の聴衆や審査員からあたたかい賞讃の言葉を贈られる。

ラファルダのタンゴ・フェスティバル以後、カルロス・ガルシア六重奏団をバックに有名なタンゴ・クラブ「エル・ビエホ・アルマセン」にプロ・シンガーとしてデビュー。TV、ラジオにも多数出演、ひとびとに知られはじめる。

1971年 南米旅行中の菅原洋一氏と「エル・ビエホ・アルマセン」で運命的めぐり逢い。「アルゼンチンでもっとも感動した歌手……」と菅原氏に気に入られ、その年の暮れ招かれて「菅原洋一リサイタル」にゲスト出演。そこで歌った日本語の歌の感情移入がすばらしく、急遽録音されたのが、「サバの女王」「粋な別れ」が取められたファースト・アルバム「愛の音／グラシェラ・スサーナ」です。

1973年 発売後6年目に入り、今なおLPチャートにあるセカンド・アルバム「アドロ／サバの女王」を録音、日本におけるスターとしての第一歩を踏み出す。

1974年以後 毎年2月前後に来日、着実に知名度をあげ、1979年1月までに日本語による歌唱、母国語スペイン語による歌唱をあわせて19枚のLPを発表。現在売上げ総枚数約250万枚を突破。初来日以後のコンサート総数約320回。いずれも外国人アーティストによる最高記録。

1977年 アルゼンチンのピテラ大統領より、この年もっとも活躍した各界の若手芸術家13人と共に表彰さる。

1978年12月 「黄金のガルデル賞（歌手に対するアルゼンチン音楽界最高の栄誉賞）」を受賞。

1978年12月18日 大歌手の道を歩みはじめたグラシェラ・スサーナは、もうひとりのギター師オスワルド・アベナを伴って8度目の来日を果たし、約40回のコンサートで歌う。

1979年3月 第一家庭電器DAM45のための公開録音（都市センター・ホール）。スサーナ最新映画音楽スタジオ録音。

あなたの腕に抱かれて 私は炎
あなたは火の鳥 燃やして 燃やして
すべてを わたしのすべてを

アドロ あなたの吐息
甘いあなたの唇
アドロ あなたの頸
陶酔のとき もう一度私に

Y me muero,
por tenerte junto a mi
Cerca muy cerca de mi,
no separarme de ti.
Y es que eres,
mi existencia, mi sentir.
Eres mi luna, eres mi sol,
eres mi noche de amor;

Adoro
el brillo de tus ojos.
Lo dulce,
que hay en tus labios rojos
Adoro
la forma en que me miras,
y hasta cuando suspiras,
yo te adoro, vida mia.
yo te adoro, vida vida mia.

コンサートに立ち合って

オーディオ評論家 小林 貢

私は、グラシェラ・スサーナという、すぐに“アドロ”を思い出します。というのはプロユース・シリーズの“フィメール・ボーカル”に、この曲が収められていて、2、3年前には雑誌のヒアリング・テストの時にずい分お世話になっていたからです。従って、おそらく多くのオーディオ・ファンの人達にもかなりおなじみなのではないかと思えます。

そのグラシェラ・スサーナがDAMオリジナル・レコーディングとしては、初登場。それも、ちょっと趣向を凝らした登場なのです。

レコーディング・データを見ると赤坂都市センター・ホールでのレコーディングとなっているので、ライブ録音とお思いでしょうが、それが違うのです。

毎回新たな企画で意欲的にレコード創りをしているDAMが、今回は、一般の人達がめったに見ることの出来ないレコーディング風景を皆様にお見せしようということで、この日のタイトルは“グラシェラ・スサーナ・レコーディング・オン・ステージ”。これは、レコーディングを舞台の上で行ない、それを客席で見学してもらうという意味で、いわば公開録音だったのです。

だから、会場の入口でもらったパンフレットには“お客様へのお願い”として次の様な事柄が印刷されていました。

1. 本日は、公開録音の為、通常のコンサートとは違い、進行状況がその都度変化する場合がありますので、司会者の進行、ご案内にご協力下さいませ、お願い致します。
2. 本日は、レコーディングも一緒に行なっていますので、本番中係員の指示以外では拍手などはやめていただく様、お願い致します。
(実際は、OKサインがでたあとに拍手をすることになりました。)
3. 本日はレコーディングですので同じ曲を2度歌うこともありますので、ご了承下さい。

これによって、聴いていただければ、おわかりと思いますが、ホール録音にもかかわらず場内ノイズのほとんどない、スタジオ録音なみのクリアなサウンドが得られた訳です。

しかし、これはレコーディング重視であり、せっかく、雨の中を聴きにこられた人達に気の毒なのではないか、など思ったのですが、逆に皆、好意的にこの企画に協力していたし、そればかりでなく、この新しい体験にかなり満足した様子でした。というのは、私達はレコーディングの時、今度のテイクはうまく行くかなといつも緊張してモニター・ルームに居る訳で、おそらく当日のお客様も一曲一曲そんな気持ちで聴いていただろうし、皆自分

がディレクターになったみたいなのも味わえた事と思う。従って、普通のコンサートよりもはるかに密度の濃い聴き方になり、その上、N.G.が出て2回も聴けた曲もあるからです。

そんな客席の雰囲気はというと、スサーナが歌っている間の息をつめた様子と歌い終わってO.K.の合図が出た後のホッとした様子がはっきりと伝わって来るのでした。

音にはなっていない、そんな雰囲気が、このレコードから感じられたとしたら、貴方の装置は相当グレードが高いと言えるのではないのでしょうか？

当日のプログラムは、トワ・エ・モワが歌っておなじみの“誰もいない海”で始まり、“アドロ”“サバの女王”“ラ・クンバルシータ”などを含めた、11曲でしたが、その内5曲にN.G.が出て2回聴けたことになりました。しかし、私の聴いた限りでは、グラシェラ・スサーナは調子が良い様でしたので、N.G.の原因は他にあったのではないかと考えています。

このVIPレコードには“アドロ”、“雪が降る”、“地図にない海”、“粋な別れ”の4曲が収められていますが、その全部が素晴らしい出来映えで、既発売のレコードと比べても勝るとも劣らない作品であると思えます。

このレコードでの聴きどころは、“天使の歌声”といわれるスサーナの声はもちろんですが、ストリングスのハーモニー感、パーカッションの定位と立ち上り、それから、スサーナ自身の弾くガット・ギターと彼女の師匠であるオスワルド・アベナのガット・ギターの質感の差という点などが、明確に聴き取れるかどうかは挙げられます。また、もっと細かいところではスサーナの歌で、子音の出方がナチュラルであるか、不自然に強調されるかという点でもコンポーネントのチェックが出来るのではないかと考えています。貴方の装置を十分にチェックした上で、彼女の素晴らしい歌声を心ゆくまで楽しんでいただきたいと思えます。

それにしても、この企画、参加したミュージシャンや録音関係のスタッフの人々にとってはかなり、ハードなものだったといえるでしょう。ご苦労様でした。

次々に斬新な企画と制作で私達を楽しませてくれる、DAM VIP レコードの次回作に早くも期待しているのは私だけではないでしょう。

録音に立ち合って

(株)タムコ 久保正義

DAM 特別会員には、年に1回の秘蔵ディスクのVIPにスサーナが加わりました。

DAM 76/45の中でも特に音響効果が良くDレンジの広い曲を2曲セレクトし、また当日録音したもので未発表の「雪が降る」「地図にない海」の2曲を新しく収録し、30cm LPの4曲入という大変贅沢な、このVIPレコードが出来た。

G.スサーナは今年で来日8回目を数え、いつも安定した歌唱と、かわらない優しさが、日本の大人のカップルの間に、特に人気がある事は、すでに御承知の事と思う。

さて、本レコード制作にあたったスタッフは、これまで発売されたスサーナのレコードを、ずっと担当して居られる、東芝EMIの平形プロデューサー、渡部ミクサーの、息の合ったコンビである。

今回は、スタジオレコーディングとは、全く条件の違う場所での、レコーディング・オン・ステージ、と言う事から、次の様な事柄について、特に検討がなされた。

- 1). 客へのPAは、ハイクオリティであり、且つレコーディングに悪影響を及ぼさない様、配慮する。
- 2). スサーナへのフォールド・バックの方法(HEAD PHONE〔以下HPと略〕あるいはステージモニタースピーカーによる)。
- 3). バックミュージシャンへのフォールド・バック(弦は片耳式HP、リズムセクション管は両耳式HPとした)。
- 4). オーディオ・チェック・レコードとして完成を想定した時、ホールにおける、公開録音であると言う以外、全てスタジオ・ライブと、同様の音場空間をつくり、一曲一曲を独立したものとする。
- 5). 拍手、歓声は入れない……。

マイクアレンジは別図の通りであるが、選択にあたり、ミクサーの渡部氏は、PAとの兼ねあいの中で可能な限り、スタジオ録音と同様な、マイクロフォンを選び、現場では、音源にできるだけマイクロフォン本体を近づける、ON MIC setting をした。

ここで特筆すべき事は、渡部氏独自の、サウンドポリシーから、G.スサーナの声に合う、Vocal用マイクとして、ショップスCMT-54Uを用いている事である。

レコーディングスタッフ16名は機械と共に11時に都市センターホールに入り、セッティングを開始…13時セットアップ打合せに入る。

14:30 G.スサーナ、ミュージシャン、ホール入り。

15:00 リハーサル開始。

G.スサーナの第一声がモニタースピーカー、JBL 4320から出ると、平形プロデューサーは開口一番、

「今日のスサーナはいい……。」

「いけるぞ!……と。」

プロシガーと言えども、いつもベストコンディションであるとは限らないので、今回の様なライブレコーディングの日のコンディションを制作スタッフは心配していたわけである。

編曲指揮の山木氏のもと、滞りなくリハーサルが終了、最終チェックをする。

MCI, JH-16, マルチTape Recorder は、76cm/secに調整されスタートキューを待つ。

本番前、お客様には司会者よりレコーディング・オン・ステージである事をお願いがあり、水を打った様に静かで、しかも熱い緊張の中、レコーディング。

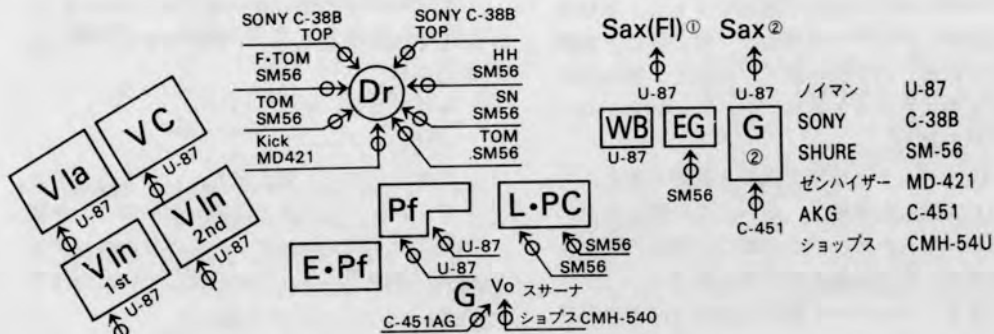
この様な状態の中での録音……。最終曲を唄いおえた時のスタッフのその表情は安堵感と快い疲労……、あとはトラックダウン、カッティングの2工程、そして待望のレコード、不思議なもので1日も早くレコードを手に入れたと思うのです。



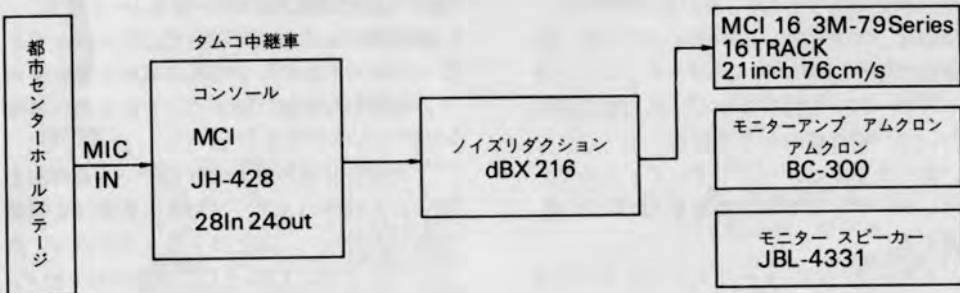
■オーケストラ, 楽器編成

アドロ **Vln⑧, Vla②, G, EG, PC(カバサ, タンバリン)Epf, Fl, Drm** 粋な別れ **アコースティックG②**

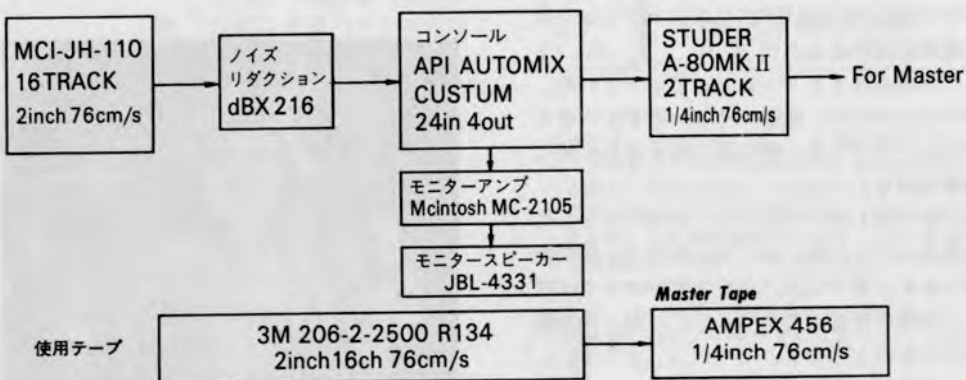
雪が降る **Vln⑧, Vla②, Vc②, G, EG, Pf, EB, Drm, Lpc, Fl, Sax** 地図にない海 **アコースティックG**



■ブロック・ダイアグラム 昭和54年3月24日都市センターホール



■トラックダウン 昭和54年4月9日東芝EMIトラックダウンルーム



■メンバー紹介

EG	宇山 恭平	SAX	鈴木 正 男	Vln(top)	藤 原 節 生
//	金 成 良 悟	Vln(top)	藤 沢 一 彦		小 林 陽 一 郎
EB	小 泉 仁 美 雄		川 島 正 雄	Vla	林 昌 一
Drm	鈴 木 正 夫		河 村 昭 夫		遠 山 克 彦
Pf	大 原 繁 仁		多 田 吉 徳	Vc	藤 沢 俊 樹
ラテンPC	川 原 正 美		中 山 言 成		田 中 進
SAX	市 原 宏 祐		井 後 勝 彦		

■クォーツ・ロック, 厚手レコードについて

【厚手レコードについて】

現在のレコードは再生系機能のグレード・アップに伴い、一段とDレンジ、Fレンジ、及びリニアリティ第、大幅に飛躍しています。振幅(P-P)250 μ ~280 μ , (L-R), ピーク・レベル+20 dB程度のもは数多く高密度レコード化しております。このような高密度レコードの溝波形を完全にトレーシングする為に再生時の技術的ノウハウ、及びそのテクニックがいろいろ考えられ、かすかすのオーディオ誌上でも論じられています。ヘッド・シェル、トーン・アームやターンテーブル・シートの共振問題等々……。たとえば、ターンテーブル・シートを例にとっても、ゴム、なめし皮、ガラス、金属等、変える毎にその音質の変化は確実に差があります。このように再生時の高忠実トレーシングはさまざまな問題が残されています。

それでは、ディスクそのものはどうかと考えますと、一時期、薄レコードはプレスでの塩化成形性が良いとされ、超薄形レコードが話題となりましたが、その一方、レコードの厚さ(質量)がもたらす音質への影響について、再生時の問題を含んだトータル・サウンドとして研究されてきた経過が有ります。厚手レコードの持つ音質上の優秀性に着眼した当社では、今までの各種データを基に、材料開発、プレス技術をも含めたプロジェクト・チームをつくり、厳しい条件下でヒヤリング測定をはじめとした各種テストを繰り返し、遂に音質バランスがラッカー・マスターに近いトーン・キャラクターをもつレコードを、ここに提供することが出来ました。レコードを厚くする(質量を増す)ことでレコードの共振を下げ、更に再生時のレコードとターンテーブル・シートとの間に起る共振を緩和させることで、中音低域の分解能が一段とクリアーになり、特に深みの有る、伸びた重低音の再現とバランスされたダイナミックなパワー感を充分にお楽しみ下さい。

この種のレコードは、特に安定度の高い盤質が必要とされますが、従来からのプロフェッショナル・レコードで開発した材料をベースに、新タイプの配合剤、熱安定性効果の高い安定剤の組合せにより、一層ゲル化性の改善を図り、また更に新タイプ帯電防止剤による静電除去効果ともあいまって極めて安定度の高い、この厚手レコードが生まれました。

【クォーツ・ロックD.D. モーターについて】

従来のシンクロナス・ダイレクト・モーターによる大振幅のカッティングでは、動的ワウ・フラッター(ダイナミック・ワウ)が少なからず音質に影響を及ぼしますが、今回の"DAM45"では、高精度にサーボされたクォーツ・ロック・D.D.モーターとダイヤモンド・カッター針を採用することで、ディスク・マスタリング時に於けるクオリティを高め、以前にまして余裕のある音溝巾と大振幅にたえられ、たっぷりとしたピッチとディープスがコントロールされるようになりました。

リアリティの良いダイナミック・レンジをもつオリジナル・サウンドの再現を可能にしました。

レコード材質及び製造プロセスについては、東芝EMIプロフェッショナル、レコード仕様と同様現時点最高の製造技術を導入して品質の安定化を図っております。尚このレコードはハイレベルでカッティングされている為、トレーシング時には針トビ、ピリツキ、等でレコードを傷つけやすい切削状となっています。再生時には特にアームのラテラル、インサイドフォースのバランス、及び再生針の摩耗状態、針圧(メーカー指定の重い方にセット)には充分気を付けて下さい。

30センチ45回転レコードの取扱いについて

このレコードは、通常の33 $\frac{1}{3}$ 回転レコードと変った点はありませんが、念のため次のことに御注意下さい。

- (1)オートプレーヤー、オートチェンジャーでも使用出来ますが、ある特殊なものでは完全な自動演奏が出来ないこともあります。このような場合、手動方式に切替えてお取扱い下さい。
- (2)回転が早くなるために、レコードの反りの影響が33 $\frac{1}{3}$ 回転に比べて出やすくなります。レコードの保管、取扱いには充分注意して下さい。
- (3)再生する部屋の温度が低いと、カートリッジが正しく作動しないことがありますのであらかじめ室温を15 $^{\circ}$ C~20 $^{\circ}$ C位に保って下さい。

レコード材質——プロユース材料使用

●カッティング・データ

Cutting: TOSHIBA-EMI L.T.D Gotenba

Cutting Date: November 26.1979

Tape Recorder: Studer A-80MK II

Drive Amplifier: Neumann SAL-74

Cutting Lathe: Neumann VMS-70

Denon Quartz Rock Motar

Cutting Head: Neumann SX-79

Diamond Cutting Stylus

指揮・編曲 山木幸三郎

プロデューサー 平形忠司

小山正敏

ディレクター 白村知英

ミクサー 渡部喜久

サウンド・エンジニア 久保正義

テクニカル・エンジニア 原 清介

カッティング・エンジニア 岡崎好雄

メンテナンス 松原 一

ジャケット 東芝EMI(株)デザイン室

カメラ 石田雄作

録音場所 赤坂都市センターホール

S.54.3.24

制作協力 小沢音楽事務所

グローバル・レコード

録音協力 株式会社 タムコ

企画 第一家庭電器 DAM

製造 東芝EMI株式会社 団